



生野高校
77期 2年

学年通信 悉しつ有

第28号 (2023年5月24日)

大阪府立生野高等学校
大阪府松原市新堂1-552
072-332-0531(学校代表)
072-332-0712(学年直通)

◆知の世界の窓口としての「阪大」

5/25(木)は「大学見学会」。会場は大阪大学豊中キャンパスです。この進路行事の目的は大きく2つあります。

1つめは、勿論「大学という場を知る。大学生の活動を知る」。次のステップのイメージが漠然としたものでは、今の自分が何をどうすればいいのかも漠然としたままです。人生の次の段階を具体的に知ること、現在の普段の生活や学習に意図を持たせてほしいと考えています。

2つめは、「学問分野を知る。学部を知る」。そこから、自分の志望学部を具体化していったほしい。自分がどの学部・どの学科や専攻を志望するのか。それらを備えた大学はどこか。志望学部の確定は、今秋～冬までが目途です。そこから逆算して、今夏～秋のオープンキャンパスには、気になる学部について実際に見て回っておきたい。国立大の夏のオープンキャンパス申込みが6～7月であることを考えると、その参加のためには、自分にとって気になる学部の候補を現時点である程度考えておく必要があります。

では、なぜ「大阪大学」なのか。4/14(金)の学年集会で、私(高崎)は「大阪で最も幅広い学問分野を扱い、最もハイレベルな内容に取り組んでいるから」と述べました。ここにこそ、他の大学ではなく大阪大学で実施する意義があります。即ち、聞ける話の範囲が広く、聞ける話の密度が濃いものである可能性が、他の近隣大学よりも高いということです。

「大学見学会」の目的の1つめと照合すると、当日みなさんが触れる大阪大学の姿・阪大生の活動に関する話は、バリエーションが豊かであればあるほどよいはず。その方が、みなさんにとっての大学像・大学生像=イメージが拡大します。自分のイメージ出来る範囲を拡大していくことの大切さは、既に何度も述べてきましたよね。続いて目的の2つめと照合すると、自分が求めている学問分野のヒントが、より高い精度で阪大なら得られます。阪大以外の大学を検討している人は、阪大で聞いて、やってみたいなど感じた学問分野が、自分の考えている大学のどの学部・どの学科

で扱っているのか、あるいは扱っていないのか・いないのかを、逆引き的に調べるための窓口になればいいのです。大学という知の世界と、自分をつなぐ窓口としての阪大。ヒントをつかむための装置としての阪大。大学見学会を、そうした場として活用してほしいと考えています。そこで得たきっかけを、夏休み以降に自分で動いて作成する大学探訪レポートに活かしましょう。勿論、次に自分で動く先が同じく阪大であってもいいし、さらに高みを志向したものでよいのです。

◆高みをめざす価値

出来るだけ高い水準をめざした方がいいのか。頑張っただけの理由があるのか——答えは「その価値あり」です。

みなさんは、今はまだ大学でやりたいことが明確ではないかもしれない。しかし、みなさんの水準ならば、大学で“やってみよう!”と思うことに必ずめぐり会えます。その時に、やりたいことを思う存分に出来る環境・思う存分に出来る仲間が、高い水準の大学であればあるほど、手に入る可能性も高くなります。それはソフトウェアの面(その分野の専門の先生がいるかどうか・予算規模・大学とつながりのある研究機関や企業など)であったり、ハードウェアの面(実験施設や実習施設など)であったりしますが、高い水準の大学であればあるほど、それらが充実していて、自分のやりたいことを支えてくれる環境として恵まれています。

言うまでもなく、いずれの大学にも特徴があり、得意分野を持っています。ハイレベルならば無条件にそれでよいというものではありません。ある大学の特徴に魅力を感じたり、ある大学の得意分野が自分のやりたいことに結びついている——というのは、志望理由として十分に成立しています。やりたいことがはっきりしている人は、その方向に合った進学先をめざしてください。一方、やりたいことをこれから見付けていく人こそ、見付かったときにそれが思う存分出来る自分であるために、高い水準をめざすべし——と考えてください。